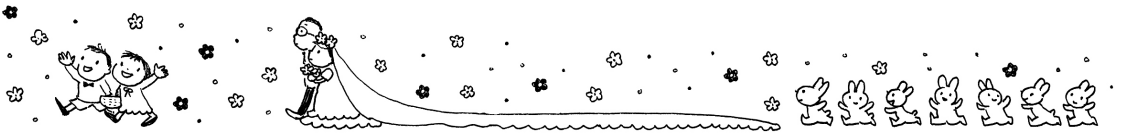


+1(プラスワン)



「よろしく!」

牧師 横山順一

いささか牧師らしくない体験を告白します。一年前、月下星志さんと大澤瞳さんが婚約する、結婚するという報告を聞いて、私は思わず「嘘!」と叫んでしまいました。それから沸き上がったのが、自分の娘の結婚の時にさへ感じなかった「怒り」と「寂しさ」でした。大事な大澤瞳さんを月下星志なる輩が、私から、東神戸から奪って行くのだと腹が立った訳です。ですから、司式を依頼された時、二度目「嘘!」と思ってしまうました。何で自分なんだ?できれば丁重にお断りして良かった。でもその時、不思議なことに、天からだか、どこからだか「よろしく」という言葉が聞こえたように思いました。本当です。「よろしく」と頼まれたら、断る術はありません。いつの頃だったか、やんちゃな人たちによる「夜露死苦」なんていう巻き舌で発音し、当て字の落書きが流行った時代がありました。ちよつとした脅しでしたが、それ

を言う方も、聞く方もまあ軽く用いるし、受け取りもしました。

しかし、その「よろしく」が、はるかに深い思いで使われた時代があったのです。新約聖書には、手紙と呼ばれる書簡に、誰だれによろしく、という文言が何度も使われていきます。これアスパズマイというギリシャ語が「よろしく」とされた訳で、本来は挨拶という意味です。ですが、単なる挨拶ではなく、重みが違うのです。

現代のような通信手段のない時代、滅多に会うことのできない、かなたに住む友人に手紙で挨拶する背景には、どんな思いが込められていたかを想像します。またすぐ会える可能性のある相手に、「よろしく伝えてや、ほなさいなら」というほどの、少しく軽い挨拶では決してなかったのです。

その手紙そのものが、届かない可能性も十分にある中で、なおあふれる思いを託しました。滅多に会えないどころか、もしかしたら二度と、一生会えないかもしれない相手に、私はあなたを忘れてはいない。欠かせない大切な友だと思っている。元気でいて欲しい。

期待に込めて欲しい。離れているけど、互いに託された務めを全うしよう。だから、よろしくお伝え下さい。よろしくお願い致します。本当に様々な、そして万感の思いを重ねて「よろしく」という挨拶を連ねたに違いないのです。自分のためにだけ、自分へのみよろしくという範疇を超えた言葉だったのです。聞いた者は、背後におられる神を見たことでしょうか。

現代の私たちには、理解し難い思いであり、感情かもしれません。

「よろしく」とは、或いは足りないところがあるとしても、それを1補う方の存在にすべてを委ね、相手を信頼しないと使えないセリフでした。言われる方も、その思いを十分に汲んだ上で受けるのです。ですから存外に重い挨拶なんです。

そのような、どうか世界で一番深く近い「よろしく」を言い合える関係を作して下さい。たとえ仕様がなないな、パスしたいなと初め思ったとしても、この人が言うなら、「よろしく」を引き受けあえる二人となつて下さい。そんな関係性を広めて下さい。そんな世界を広げて下さい。(私は今回動

めを果たしましたから、私にはできたらもう言わないで良いですよ。)ですが、私も心を込めて申し上げます。

瞳さん、どうか星志さんをよろしく頼みます。

星志さん、どうか瞳さんをよろしく頼みます。

お二人、どうぞこれからをよろしくお願います。

お二人、どうぞこれからもよろしくお願います。

(五月二十日、結婚式式辞。)

【それはないやろ】

全国の公立図書館で、学校卒業アルバムの一部が破り取られる事例が相次いでいると知った。

それを紹介したNHKのニュース番組で、登場したゲストは「コピーすれば済むことなのに」と発言していた。

想像に過ぎないが、当該ページを破り取った人物は、それが必要だったとは思われない。その場合もあるかもしれない。だがむしろ、

違う想像も働く。そのページが公になるのが嫌で破り取ったのではないかと。

同番組の女性キャスターは、「国民の財産です」と述べた。正直、大げさではないかと感じた。

もちろん、図書館の書物をどのような理由であれ、勝手にしてはならない大原則はある。

しかし、個別の学校の卒業アルバムを、図書館に収めねばならない理由が分からない。当該学校の図書室に保存すれば十分ではないか。

今や、PTAでさえ互いの住所を公開するのは、個人プライバシーの損害とする時代だ。

その風潮に異論はあるだろうが、一方で卒業アルバムを商売にしている実態もある。皆さん、どうか考えか。

【解放】

イエスよ、わたしを解放してください。

愛されたいという思いから、評価されたいという思いから、重んじられたいという思いから、

ほめられたいという思いから、好かれたいという思いから、相談されたいという思いから、認められたいという思いから、有名になりたいという思いから、侮辱されることへの恐れから、見下されることへの恐れから、非難される苦しみへの恐れから、忘れられることへの恐れから、誤解されることへの恐れから、からかわれることへの恐れから、疑われることへの恐れから、

マザー・テレサ

【六月の予定】

◎四日(日)

ペンテコステ。

◎十一日(日)

花の日・こどもの日合同礼拝。

二十四日(土)

日本基督教団創立七十六年記念日。

【もういっちょ】

▼とうとう「共謀罪」が衆院を通過した。六月半ばに参院でも可決の流れだろう。

これほど危惧される法案を、

「強行採決」する政権の姿勢に、中身が反映されている。

「狂暴罪」としか言えまい。

▼聖書は、繰り返し「恐れてはならない」と説く。釜ヶ崎の集会でも、「最後まで抗う」と確認した。

恐れて「自粛する」ことが同法の最大の目的だ。だがまだ、憲法がある。

改正(悪)憲法施行を二〇二〇年と首相は述べた。最終目的がはつきり宣言された。何となくも現憲法を守らねばならない。その戦いに希望と活路を見出そう。